

球磨村 おがわ瓦版

令和2年11月15日
編集発行 宮原 修
090-9585-8894

一勝地・渡小学校合同運動会開催

10月28日(水) 午後から一勝地・渡小学校合同運動会が球磨中学校の運動場で開催された。

子どもたちの笑顔と元気が 球磨村復旧復興の励みに !!

運動会は一勝地小学校(柿原和明校長 児童68名)・渡小学校(犬童裕美校長 児童77名)の全児童145名が徒競走とリレー競技のみ行われた。

開会式では柿原校長が「友達を力いっぱい応援するみなさんの声をこの運動場に響かせて球磨村のみなさんにも元気を届けてください」とあいさつ。来賓として松谷球磨村長と森佳寛教育長が出席し、松谷村長が

「私は小学校の時、かけっこはいつもビリでした。どんなことでも最後まで、一生懸命取り組むことが大事です」と激励の言葉を述べた。競技の前には「くまモン先生」がサプライズ登場。



両校でつなぐバトン



お互いに応援し合う児童

安心できる居場所を!

ホッとカフェ“だんだん”

球磨村は、毎週金曜日午後1時～4時まで各仮設団地の「みんなの家」集会場を回り、安心できる居場所にとホッとカフェ“だんだん”を開いている。

10月30日には、球磨村グランド仮設団地の「みんなの家」集会場で行われ、仮設団地の入居者10人が参加した。

ラジオ体操をした後、スタッフと参加者の自己紹介があり、脳トレクイズや便利グッズ作りで楽しんだ。参加した椎屋アキノさん(茶屋地区)は「久しぶりに笑いました。脳トレクイズは楽しく、便利グッズ作りも簡単でおもしろかったです。感謝感謝です」と話した。

今回、スタッフとして訪れた社会福祉法人ましき苑「花へんろ」の堀光代施設長は「私も熊本地震で被災した一人として、仮設の中で生活しているみなさんの気持ちは理解できます。少しでも気持ちが明るくなって、『いろいろなことができる可能性がまだまだあるんだよ』と思ってほしいです」と話していた。



簡単便利グッズ作で楽しむ参加者

“だんだん”は球磨村主催で熊本県認知症ケア専門士会、同認知症介護指導者の会などが共催。県内の福祉施設事業所等のスタッフで、来年3月まで行われる予定。

最初は戸惑いながらも児童たちは大喜び!一緒にくまモン体操をして球磨村にエールを送った。前半の徒競走では必死で走る児童、笑顔で走る児童に保護者や地域の人たちが懸命に応援していた。後半のリレーは両校混合チームで編成され、バトンを繋ぎながら競った。閉会式で犬童校長が「一勝地小学校と渡小学校のみなさんが力を合わせ一緒のチームになってリレーをする姿を見てうれしく、胸がジーンとしました」と講評。児童は「短い時間だったけど、一勝地小と渡小が協力できて楽しかった」「災害でいろんな経験



子どもたちの笑顔が帰ってきた!

渡小学校運動場が 遊び・集いの場へ



球磨村教育委員会は災害支援チームやボランティア団体と地域学校協働本部がコミュニケーションスクール、PTAなどと連携して渡小運動場に小高い丘も造り、整備された。早くこの場で子供たちの遊び場に、地域の人々のグランドゴルフなど集える場所になること待ち望んでいる。

をした。来年は低学年をしつかり引っ張って最高の運動会にしたいです」と笑顔で話した。一時間半の運動会だったが、児童や保護者、そして地域住民にとっても、球磨村復興に大きな励みと活力になった。